

## 令和4年度 安曇野市 水道事業会計 予算概要

### 水道事業予算概要

#### 1 業務量 (予算書 2ページ)

業務の予定量	令和4年度	令和3年度	増 減	増減率
給水戸数 (戸)	39,100	39,200	△ 100	△ 0.3%
年間総給水量 (千m <sup>3</sup> )	9,300	9,400	△ 100	△ 1.1%
一日平均給水量 (m <sup>3</sup> )	25,480	25,753	△ 273	△ 1.1%

人口減少や節水型社会の進展に伴い給水人口と給水量は減少傾向にあるため、給水戸数の予定業務量は39,100戸として、年間総給水量は930万m<sup>3</sup>を見込みます。

#### 2 収益的収支 (予定損益計算書) (予算書 2ページ、4ページ、16ページ、24~31ページ)

水道水を作り、みなさまへお届けするための収支状況です。  
水道水がどのくらい売れて、その水道水を供給するまでにどのくらいの費用がかかっているのかを表します。

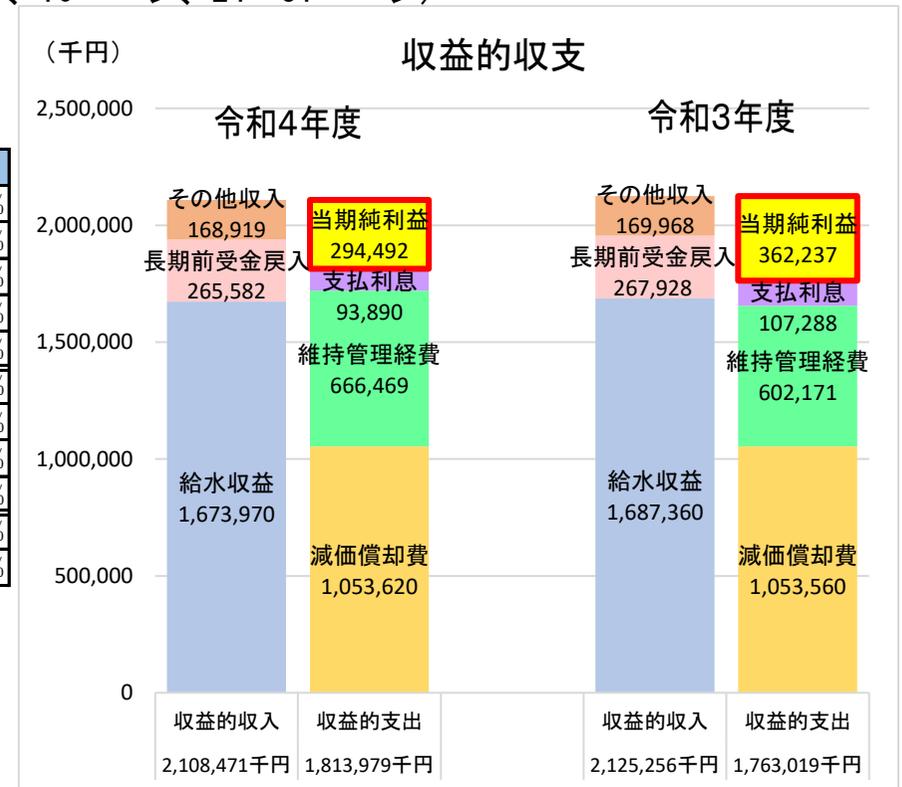
(千円) ※消費税抜き

収益的収支	令和4年度	令和3年度	増 減	増減率
営業収益	1,841,197	1,855,711	△ 14,514	△ 0.8%
うち給水収益	1,673,970	1,687,360	△ 13,390	△ 0.8%
営業外収益	267,274	269,545	△ 2,271	△ 0.8%
うち長期前受金戻入	265,582	267,928	△ 2,346	△ 0.9%
収益計 ①	2,108,471	2,125,256	△ 16,785	△ 0.8%
営業費用	1,712,665	1,649,175	63,490	3.8%
うち減価償却費	1,053,620	1,053,560	60	0.0%
営業外費用	101,314	113,844	△ 12,530	△ 11.0%
費用計 ②	1,813,979	1,763,019	50,960	2.9%
経常損益 ①-②	294,492	362,237	△ 67,745	△ 18.7%
純損益(当期純利益)	294,492	362,237	△ 67,745	△ 18.7%

収益は21億847万1千円で、主に給水収益の減少のため、1,678万5千円の減額を見込みます。

費用は18億1,397万9千円で、動力費が原油価格高騰の影響で増加となり、合わせて修繕費等が増加となったことから、5,096万円の増額を見込みます。

収益は減少となり、費用は増加となったため純利益は6,774万5千円減少しますが、2億9,449万2千円の黒字を見込みます。



3 資本的収支（予算書 2 ページ、5 ページ、32～35 ページ）

水道施設の整備を行うための収支状況です。

（千円）※消費税込み

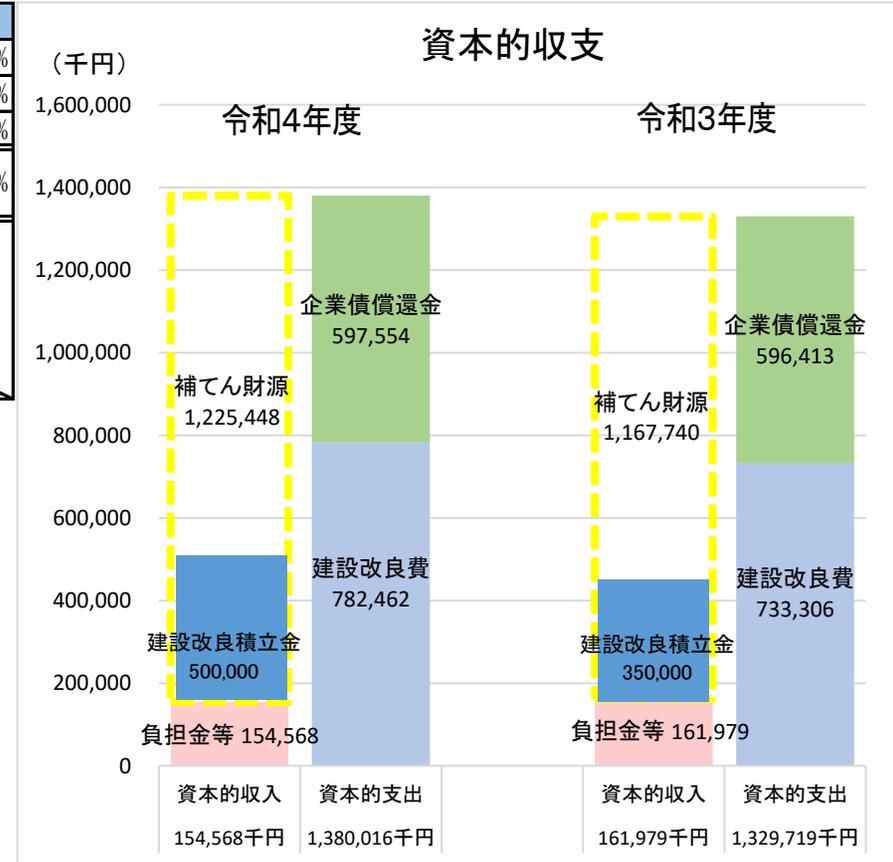
資本的収支		令和4年度	令和3年度	増 減	増減率
資本的収入 (a)		154,568	161,979	△ 7,411	△ 4.6%
資本的支出 (b)		1,380,016	1,329,719	50,297	3.8%
	うち企業債償還金	597,554	596,413	1,141	0.2%
資本的収支不足額 (a) - (b)		△ 1,225,448	△ 1,167,740	△ 57,708	4.9%
上記 補てん 財源	消費税資本的収支 調整額	56,847	51,744	/	
	損益勘定留保資金 (※1)	668,601	765,996		
	建設改良積立金	500,000	350,000		

令和4年度は、主要管路整備配水管布設工事を重点施策として実施します。建設改良費は増加し、資本的収入は1億5,456万8千円で、資本的支出は13億8,001万6千円を見込みます。

資本的収支不足額12億2,544万8千円は、過年度分損益勘定留保資金6億6,860万1千円、建設改良積立金5億円などで補てんします。

(※1) 損益勘定留保資金

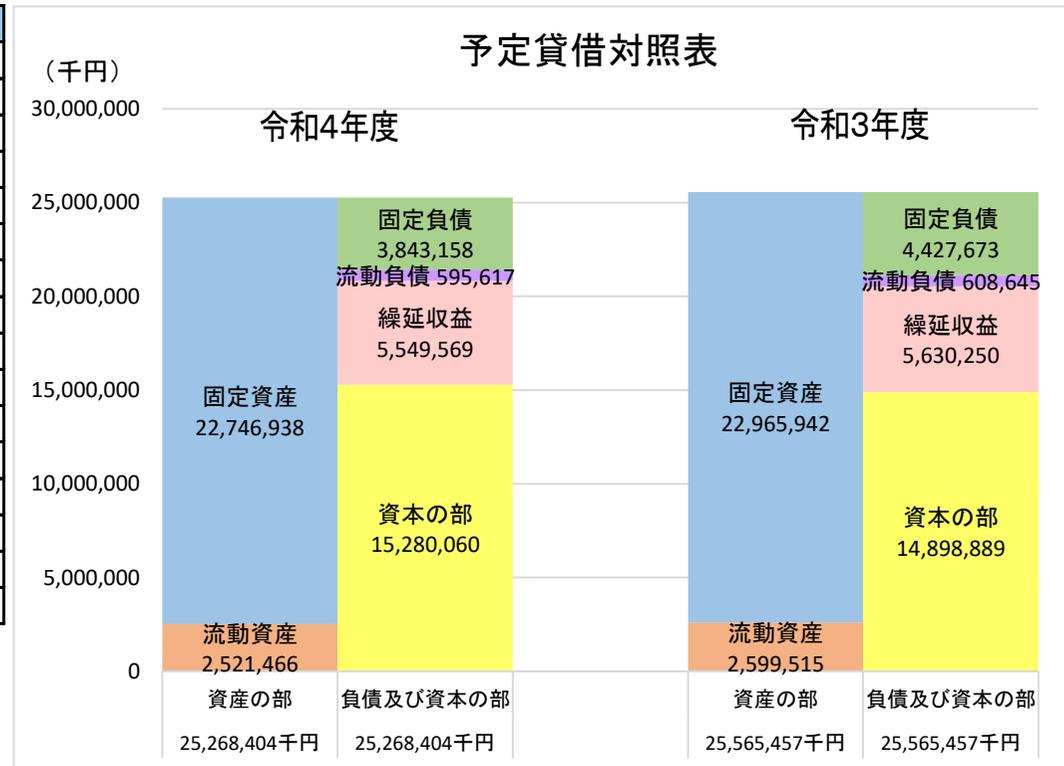
施設の減価償却費など現金の支出を必要としない企業内部で留保される資金



#### 4 予定貸借対照表 (予算書 18~19ページ)

財政状態を表し、保有している財産の状況や、抱えている借入金の状況などを明らかにしています。  
(千円)

	令和4年度	令和3年度	増 減
資産	25,268,404	25,565,457	△ 297,053
固定資産	22,746,938	22,965,942	△ 219,004
流動資産	2,521,466	2,599,515	△ 78,049
うち現金	2,483,023	2,560,951	△ 77,928
負債	9,988,344	10,666,568	△ 678,224
固定負債	3,843,158	4,427,673	△ 584,515
うち企業債	3,843,158	4,427,673	△ 584,515
流動負債	595,617	608,645	△ 13,028
うち企業債	584,514	597,553	△ 13,039
繰延収益	5,549,569	5,630,250	△ 80,681
資本	15,280,060	14,898,889	381,171
資本金	12,947,496	12,598,396	349,100
剰余金	2,332,564	2,300,493	32,071
資本剰余金	193,990	193,990	0
利益剰余金	2,138,574	2,106,503	32,071
負債+資本 計	25,268,404	25,565,457	△ 297,053



資産の部では、固定資産の減価償却累計額の増加、支出の増加に伴う現金の減少により、残高が減額となる見込みです。

また、負債の部では企業債の償還、長期前受金収益化累計額の増加により、残高が減額となる見込みです。

#### 5 予定キャッシュ・フロー計算書 (予算書 6ページ)

1年間の現金収入や現金支出を「営業活動」「投資活動」「財務活動」の3種類に区分けして、現金の流れを表します。

営業CFでは、主たる営業活動に伴う現金の増減を表します。プラスになっていることが原則で、多いほど事業活動が順調と言えます。

投資CFでは、施設の整備や固定資産の取得に伴う現金の増減を表します。通常は、マイナスとなります。

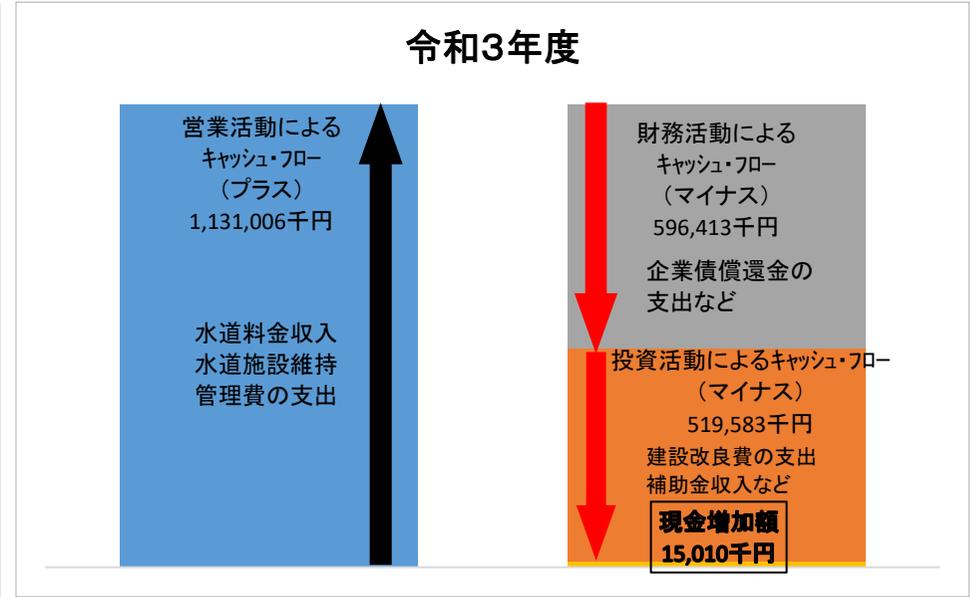
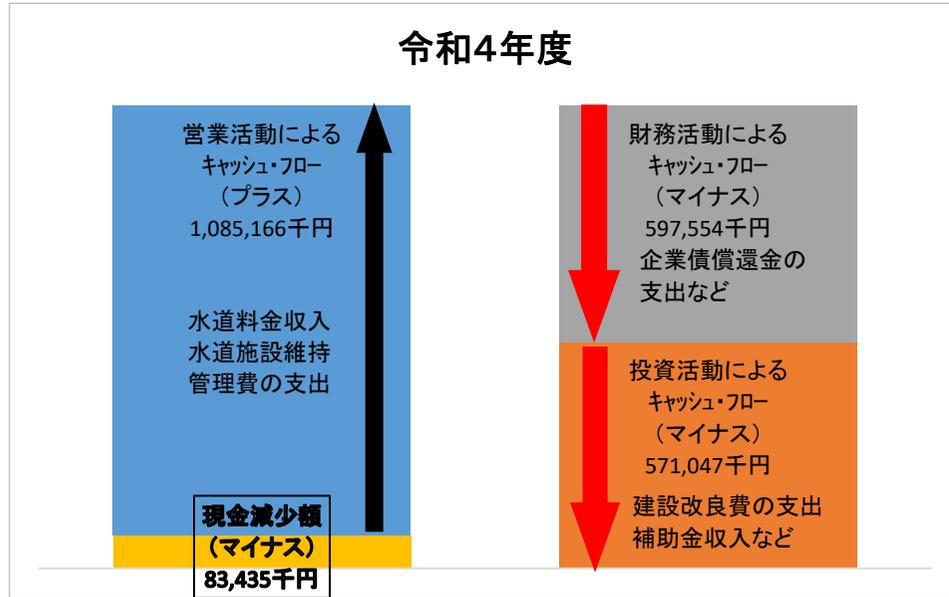
財務CFでは、資金調達や企業債償還に伴う現金の増減を表します。企業債を償還した場合にマイナス、借り入れた場合にはプラスとなります。

(千円)

	令和4年度	令和3年度	増 減
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,085,166	1,131,006	△ 45,840
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 571,047	△ 519,583	△ 51,464
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 597,554	△ 596,413	△ 1,141
現金増減額	△ 83,435	15,010	△ 98,445
現金期首残高	2,566,458	2,545,941	20,517
現金期末残高	2,483,023	2,560,951	△ 77,928

営業活動による現金収入は10億8,516万6千円で、順調な経営状況を見込みます。投資活動による現金支出は5億7,104万7千円で、主要管路整備配水管布設工事等の建設改良工事費を支出します。財務活動による現金支出は5億9,755万4千円で、企業債の償還金を支出します。現金の期末残高は、24億8,302万3千円となる見込みです。

※令和3年度現金期末残高と令和4年度現金期首残高が一致しないのは、令和3年度補正予算の数値を反映せず、当初予算の数値と比較しているためです。

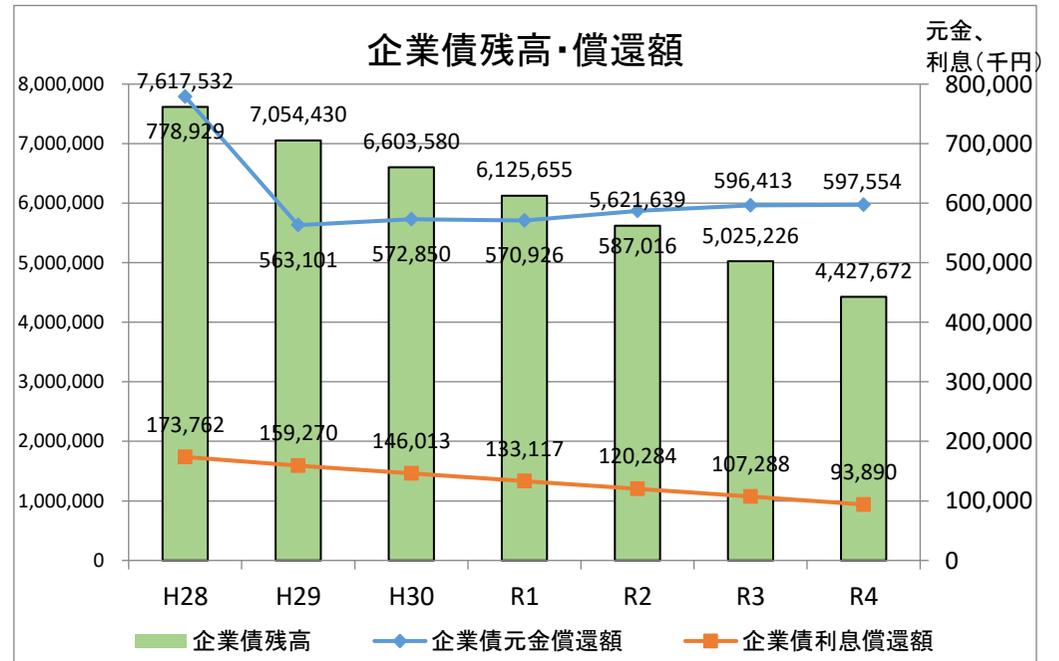


## 6 企業債

(千円)

	令和4年度	令和3年度	増 減
借入額	0	0	0
企業債元金償還額	597,554	596,413	1,141
企業債利息償還額	93,890	107,288	△ 13,398
企業債年度末残高	4,427,672	5,025,226	△ 597,554

令和4年度は、5億9,755万4千円の元金償還を予定しており、年度末の企業債残高は、44億2,767万2千円となる見込みです。  
令和4年度は企業債の借り入れはしない予定ですが、水道ビジョンの見直しをする中で、令和5年度以降につきましてはアセットマネジメントを考慮したうえで企業債借り入れの検討をしていきます。



# 令和4年度 安曇野市 下水道事業会計 予算概要

## 下水道事業予算概要

### 1 業務量 (予算書 38ページ)

業務の予定量	令和4年度	令和3年度	増 減	増減率
排水戸数 (戸)	31,600	31,500	100	0.3%
年間汚水量 (千m <sup>3</sup> )	8,591	8,500	91	1.1%
一日平均汚水量 (m <sup>3</sup> )	23,537	23,288	249	1.1%

接続率の向上により排水戸数は増加傾向にあるため、排水戸数の予定業務量は31,600戸として、年間汚水量は859万1千m<sup>3</sup>を見込みます。

### 2 収益的収支 (予定損益計算書) (予算書 38ページ、40ページ、50ページ、58~67ページ)

使われた汚水をきれいにして川に流すまでの収支状況です。  
下水道に流された汚水を処理する費用がどのくらいかを表します。

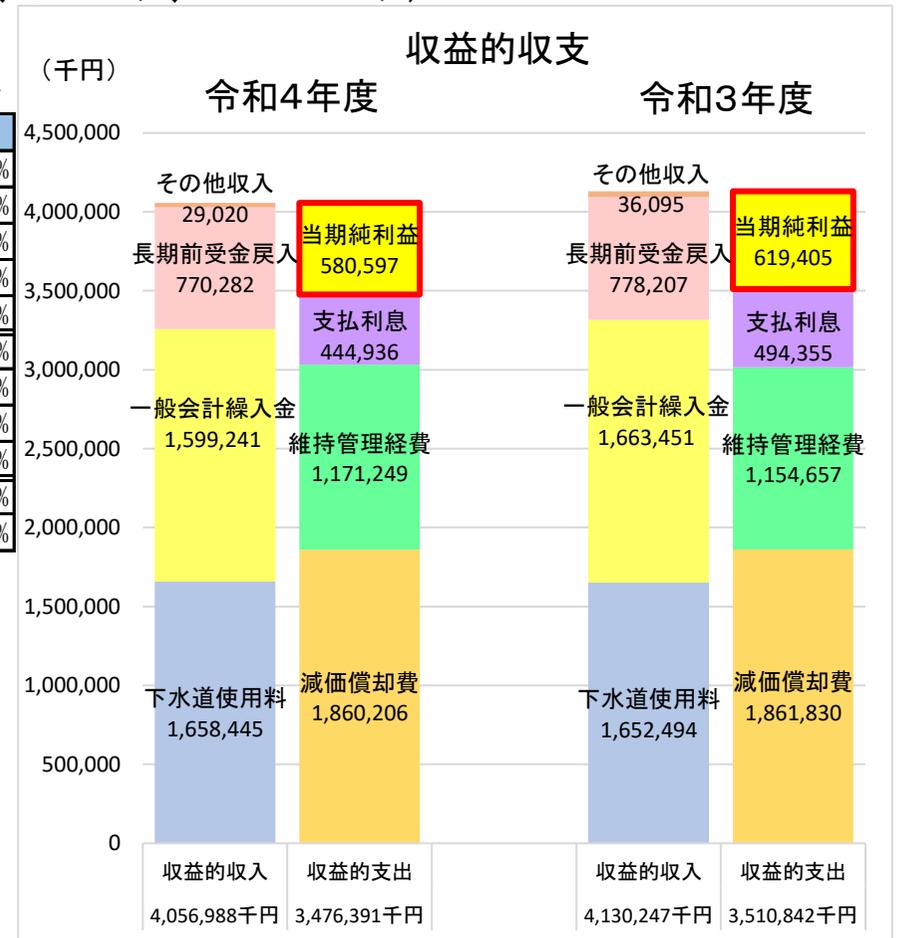
(千円) ※消費税抜き

収益的収支	令和4年度	令和3年度	増 減	増減率
営業収益	1,686,822	1,679,769	7,053	0.4%
うち下水道使用料	1,658,445	1,652,494	5,951	0.4%
営業外収益	2,370,166	2,450,478	△ 80,312	△ 3.3%
うち一般会計繰入金	1,599,241	1,663,451	△ 64,210	△ 3.9%
収益 計 ①	4,056,988	4,130,247	△ 73,259	△ 1.8%
営業費用	3,030,035	3,014,949	15,086	0.5%
うち減価償却費	1,860,206	1,861,830	△ 1,624	△ 0.1%
営業外費用	446,356	495,893	△ 49,537	△ 10.0%
費用 計 ②	3,476,391	3,510,842	△ 34,451	△ 1.0%
経常損益 ①-②	580,597	619,405	△ 38,808	△ 6.3%
純損益 (当期純利益)	580,597	619,405	△ 38,808	△ 6.3%

収益は40億5,698万8千円で、水洗化率の向上に伴い下水道使用料収入は595万1千円の増額を見込みますが、一般会計繰入金は、分流式下水道に要する経費の減少などにより6,421万円減額となり、総額は7,325万9千円の減額を見込みます。

費用は34億7,639万1千円で、犀川安曇野流域下水道維持管理負担金などが増加しますが、委託料、企業債支払利息などの減少により、3,445万1千円の減額を見込みます。

純利益は3,880万8千円減少となりますが、5億8,059万7千円の黒字を見込みます。



3 資本的収支 (予算書 38ページ、41ページ、68～71ページ)

下水道施設の整備を行うための収支状況です。

(千円) ※消費税込み

資本的収支		令和4年度	令和3年度	増 減	増減率
資本的収入 (a)		1,005,421	882,004	123,417	14.0%
	うち資本費平準化債	491,000	400,000	91,000	22.8%
資本的支出 (b)		2,745,943	2,663,684	82,259	3.1%
	うち企業債償還金	2,498,824	2,452,736	46,088	1.9%
資本的収支不足額 (a) - (b)		△ 1,740,522	△ 1,781,680	41,158	△ 2.3%
上記補てん財源	消費税資本的収支調整額	3,800	1,732	/	
	損益勘定留保資金(※1)	1,096,522	1,154,148		
	減債積立金	640,200	625,800		

収入は10億542万1千円で、企業債、一般会計繰入金、負担金等の増加により、1億2,341万7千円の増額を見込みます。

支出は27億4,594万3千円で、建設改良費、企業債償還金の増加により、8,225万9千円の増額を見込みます。

資本的収支不足額17億4,052万2千円は、損益勘定留保資金10億9,652万2千円、減債積立金6億4,020万円などで補てんします。

(※1) 損益勘定留保資金

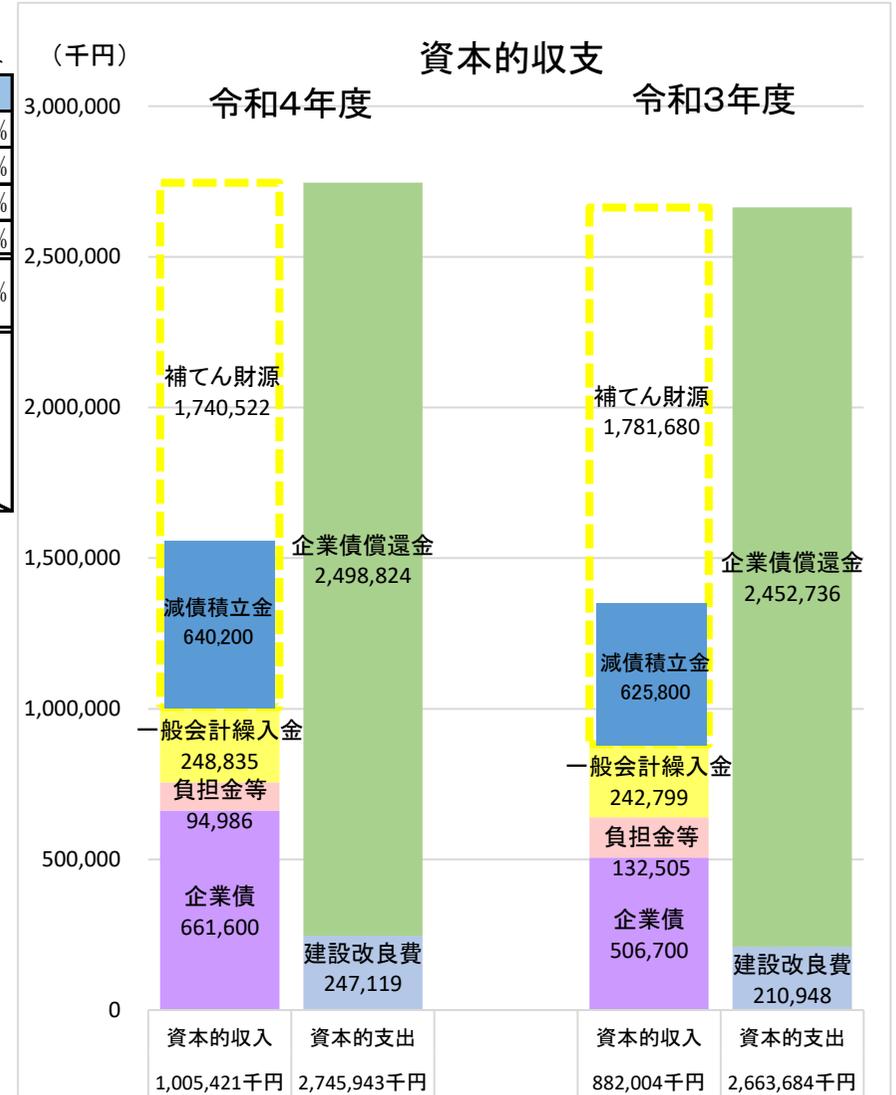
施設の減価償却費など現金の支出を必要としない企業内部で留保される資金

(参考) 一般会計繰入金収入額の比較

(千円)

	令和4年度	令和3年度	増 減
一般会計繰入金合計	1,850,000	1,908,079	△ 58,079
収益的収入	1,601,165	1,665,280	△ 64,115
資本的収入	248,835	242,799	6,036

※1,601,165 = 営業収益1,924 + 営業外収益1,599,241

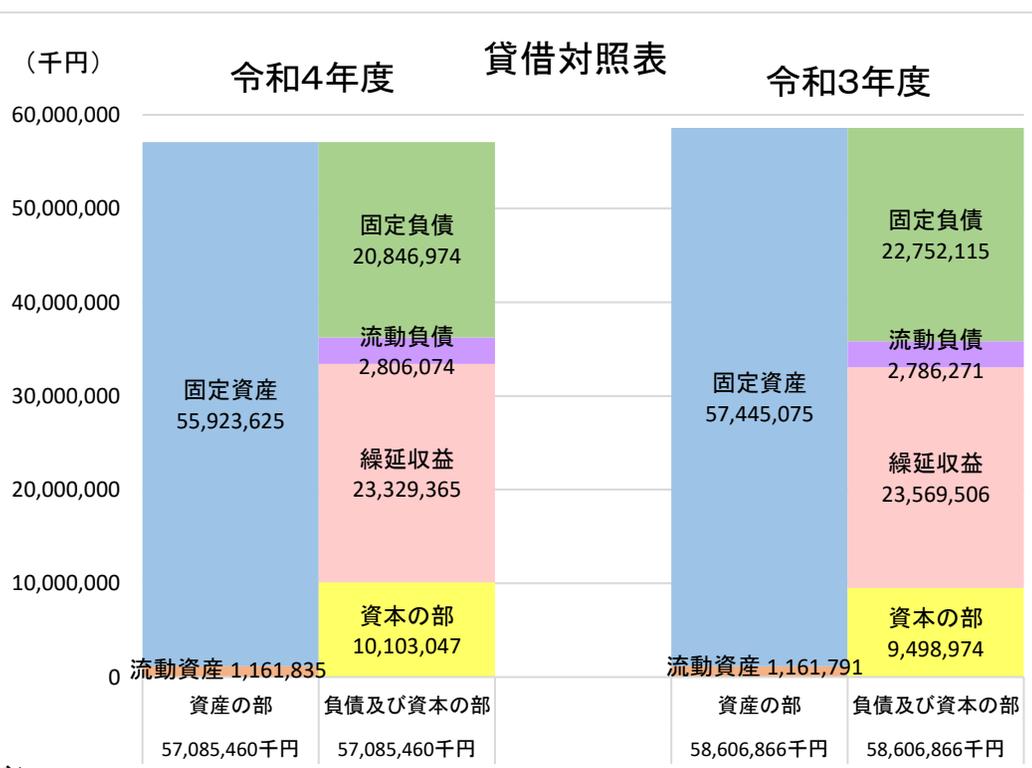


#### 4 予定貸借対照表 (予算書 52~53ページ)

財政状態を表し、保有している財産の状況や、抱えている借入金の状況などを明らかにしています。

(千円)

	令和4年度	令和3年度	増減
資産	57,085,460	58,606,866	△ 1,521,406
固定資産	55,923,625	57,445,075	△ 1,521,450
流動資産	1,161,835	1,161,791	44
うち現金	1,026,899	1,029,656	△ 2,757
負債	46,982,413	49,107,892	△ 2,125,479
固定負債	20,846,974	22,752,115	△ 1,905,141
うち企業債	20,846,974	22,752,115	△ 1,905,141
流動負債	2,806,074	2,786,271	19,803
うち企業債	2,519,404	2,499,601	19,803
繰延収益	23,329,365	23,569,506	△ 240,141
資本	10,103,047	9,498,974	604,073
資本金	8,484,773	7,856,073	628,700
剰余金	1,618,274	1,642,901	△ 24,627
資本剰余金	397,448	397,448	0
利益剰余金	1,220,826	1,245,453	△ 24,627
負債+資本 計	57,085,460	58,606,866	△ 1,521,406



企業債の償還額が借入額を大きく上回るため、企業債残高は233億6,637万8千円となり、18億8,533万8千円減少する見込みです。また、企業債残高が負債合計の49.7%を占めています。

#### 5 予定キャッシュ・フロー計算書 (予算書 42ページ)

1年間の現金収入や現金支出を「営業活動」「投資活動」「財務活動」の3種類に区分けして、現金の流れを表します。

営業CFでは、主たる営業活動に伴う現金の増減を表します。プラスになっていることが原則で、多いほど事業活動が順調と言えます。

投資CFでは、施設の整備や固定資産の取得に伴う現金の増減を表します。通常は、マイナスとなります。

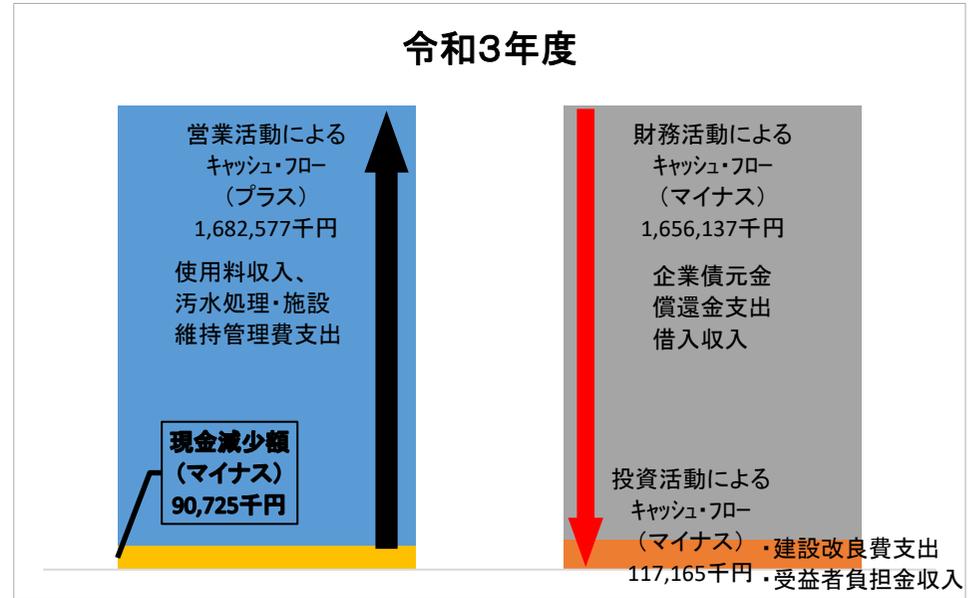
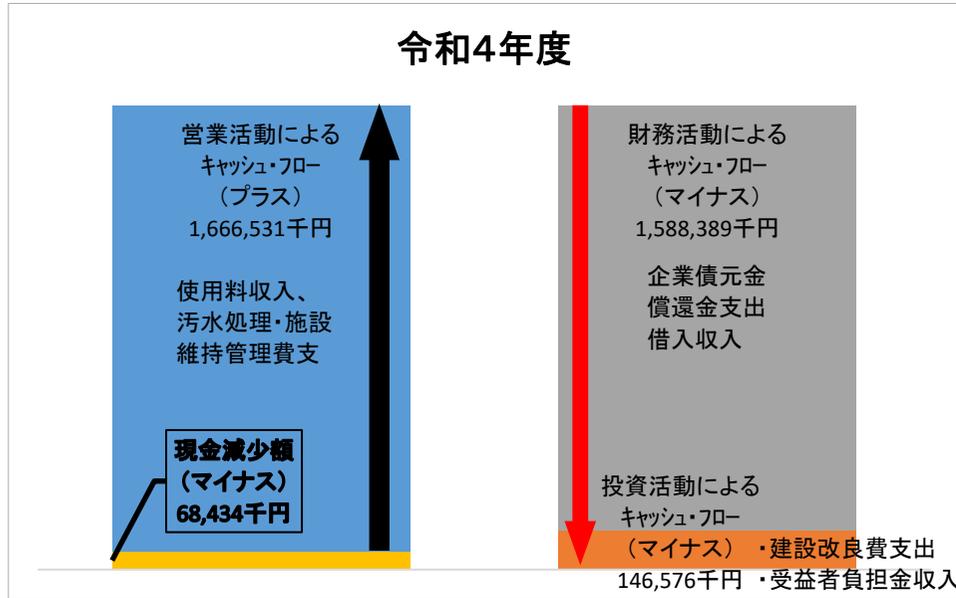
財務CFでは、資金調達や企業債償還に伴う現金の増減を表します。企業債を償還した場合にマイナス、借り入れた場合にはプラスとなります。

(千円)

	令和4年度	令和3年度	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,666,531	1,682,577	△ 16,046
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 146,576	△ 117,165	△ 29,411
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,588,389	△ 1,656,137	67,748
現金増減額	△ 68,434	△ 90,725	22,291
現金期首残高	1,095,333	1,120,381	△ 25,048
現金期末残高	1,026,899	1,029,656	△ 2,757

営業活動による現金収入が16億6,653万1千円で、順調な経営状況を見込みます。投資活動による現金支出は1億4,657万6千円で、犀川安曇野流域下水道事業にかかる建設負担金等を支出します。財務活動による現金支出は15億8,838万9千円で、企業債の償還金を支出します。現金の期末残高は、10億2,689万9千円となる見込みです。

※令和3年度現金期末残高と令和4年度現金期首残高が一致しないのは、令和3年度補正予算の数値を反映せず、当初予算の数値と比較しているためです。



## 6 企業債

(千円)

	令和4年度	令和3年度	増減
借入額	661,600	506,700	154,900
うち資本費平準化債	491,000	400,000	91,000
企業債元金償還額	2,498,824	2,453,451	45,373
企業債利息償還額	444,936	494,355	△ 49,419
企業債年度末残高	23,366,378	25,203,602	△ 1,837,224

令和4年度は、下水道事業債1億7,060万円と、資本費平準化債4億9,100万円の借入を予定しています。

また、24億9,882万4千円の元金償還を予定しており、年度末の企業債残高は、233億6,637万8千円となる見込みです。

